

5月どり春ネギの作期拡大に向けた播種・移植日

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

一本ネギの端境期となる5月中旬～下旬は不抽苔系の坊主不知ネギが用いられているが、品質が優れる一本ネギの出荷が望まれており、抽苔を抑制する栽培法の確立が求められている。一本ネギの5月中下旬までの出荷期拡大を目指し、播種・移植日が抽苔発生、収量に及ぼす影響について検討したので紹介する。

(2) 情報・成果の要約

- 1) 春どり一本ネギにおいて、7月26日以降の播種×9月29日以降の移植を行うと、5月中下旬にかけての抽苔発生が減少することから、一本ネギでの5月中下旬収穫の可能性が認められた。
- 2) 育苗形態(200穴セルトレイ、448穴セルトレイ)の違いによる抽苔への影響は認められなかった。

2 試験成果の概要

2011年、2012年の2か年において、異なる育苗形態における5月どり春ネギの播種・移植日が抽苔の発生および収量に及ぼす影響を調査した(表1)。

表1 試験区の概要

育苗方法 (播種数、ポット間隔、栽植密度)	播種日-移植日	試験年
200穴セルトレイ (4粒、10.0cm、4,000本/a)	7/15-9/15	2011年
	7/20-9/22	
448穴セルトレイ (3粒、7.9cm、約3,800本/a)	8/1-10/4	2012年
	7/20-9/22	
	7/26-9/29	

注) 供試品種「龍まさり」(横浜植木)、条間1mにて実施した

(1) 生育

2011年試験において、移植日が早いほど葉鞘長および葉鞘径が有意に優れ、2012年試験においても葉鞘径は同様であり、移植日が早いほど生育が旺盛であった。育苗形態の違いによる有意な生育差は、何れの試験においても認められなかった(表2)。

(2) 収量

2011年試験において、200穴セルトレイ育苗は448穴セルトレイ育苗より上物重量が有意に重く、移植日の違いに有意な差は認められなかったが、何れの育苗形態においても9月15日移植の上物重量が最も優れた。

2012年試験においては、育苗形態の違いに有意な差は認められなかったが、移植日には有意性が認められ、何れの育苗形態においても9月29日移植の上物重量が9月22日移植より有意に重かった(表3)。

(3) 抽苔

2011年試験において、何れの区も5月15日まで抽苔率10%未満と低率であったが、9月22日移植および10月4日移植区は5月25日においても3%未満であった。

2012年試験においては、9月22日移植区の抽苔率が5月11日時点で20%を超えたのに対し、9月29日移植区は何れの育苗形態とも5%以下と低率であったが、5月17日には何れも20%前後となった。

尚、両年とも、育苗形態の違いによる抽苔率への影響は小さく、ほぼ同等に推移した。

